

安住寺だより



禪の心

第165号

発行 安住寺 (年4回発行)

臨済宗南禅寺派

大分県杵築市大字南杵築379

〒873-0002 Tel.0978-62-2680

URL <http://www.anjuuji.net>

編集 矢野明玄 2・3頁

矢野玄德 1・4頁

謹賀新年

檀信徒の皆様には、無事に新年をお迎えることとお慶び申し上げます。本年も倍旧のご法愛をお願い申し上げます。上と共に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

平成三十一年歳旦



- 代表責任 矢野明玄
- 役員住職 矢野明玄
- 責任役員 矢野玄德
- 責任役員 植木文一郎
- 総代 清末静男
- 総代 中村文三
- 総代 西正文
- 総代 松本文次
- 総代 是久幸雄
- 総代 加藤傳藏
- 総代 麻生哲治
- 合掌会長 廣石美枝子

大般若・初観音講

一月十七(木) 十一時より

一年の無事を祈願する年頭の行事です。是非お参り下さい。午後には、初観音講です。午後もお参り下さい。初観音講の用意をします。出席の届けをお願いたします。弁当代二百円

参拝のみの方は、弁当代不要です。

昨年も地震や風水害が多発し、家族や住居、農地を失われた方々が沢山おられます。仮設や避難先で正月を迎えておられる被災者に心からのお見舞いを申し上げます。

さて、本年は亥歳です。猪は「猪突猛進」と言われるように元気の象徴でもあります。被災地は元より日本中が元気で災害の少ない一年であることをお祈り申し上げます。

穏やかで 安心して 暮らせる日々に期待

五月には、新天皇が即位されます。大変お目出度い年です。大きな変化や地震、津波、原発事故など災害の多かった「平成」から「猛進」しなくても穏やかで安心して暮らせる、新しい時代になることを皆様と共に期待したいものです。

本年度の年回忌は、下記のとおりです。お早めに相談頂ければ、ご希望の日程でお受け致します。

年回忌	没年
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十五回忌	平成七年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年



昨年と今年、二代の実がなるダイダイの木

お正月のお鏡餅の上にダイダイを乗せます。家や伝統が続くように。

近年は、過疎化、少子化で色々とあります。何でも省略するのが普通に行われているように、不安です。大事な伝統は、伝えなければと思う。

伝統

伝えなければ 伝わらない



閑栖和尚と孫達(小学6、5、幼年長組二人) 12.15撮影

新年を迎えて

明けましておめでとうございます。

安住寺檀信徒の皆様におかれましては、平成三十年の新年を一つがなく迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、安住寺護持に檀信徒の皆様は元より、総代様地区世話人様、また合掌会の皆様と、ご協力いただいておりますこと心より感謝御礼申し上げます。

寺報「安住寺だより」を振り返っております。平成十六年の秋彼岸号に、私が修行から戻りましたことが載せてありました。あれから昨年で干支が一巡したことになります。

また、平成十九年頃より寺報の原稿を閑栖和尚と半々で書くようになっておりました。十二年間と言っても過ぎてしまえば早いものだなあと、感慨深く振り返りました。

また、平成二十三年の晋山式の後から、ご葬儀で引導を渡すようになりましたが、昨年まで

に百六十名以上の方のご葬儀を務めさせて頂いていました。お名前を確認しながら、色々お話を聞いて勉強になったこと、お寺の行事でお世話になったこと、桐経で道案内をいただいたことなど、思い返すことばかりです。

年年歳歳花相似たり
歳歳年年人同じからず
言を寄す全盛の紅顔子
應に憐むべし半死の白頭の翁
此の翁白頭眞に憐む可
伊れ昔紅顔の美少年

若い盛りの美しい君達に言う。年老いた白髪の老人の姿は憐れむべくも、この白髪の老人も、昔はあなた方と同じく紅顔の美少年であったのだと。年々一年の過ぎるのを早く感じるようになり、この詩の意味や、人生の先輩方から頂いた言葉が身に染みるようになってき

ました。「偕老比翼の契（かたら）いも しばし浮世の夢ならん 兄弟朋友ありしとて 伴い行くことさらになし」と『菩提和讃』にも書かれています。出会いと別れは世の常ですが、各々に頂いた限られた時間は、一瞬一瞬大切なものです。



平成三十年を無事に迎えられることに感謝し、尊い時間を大切に、真心をもって一年努められるようにと願い、今年の干支色紙には「誠願新たなり」と書かせていただきました。檀信徒の皆様方にとって素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます。本年も変わらぬ御法愛を賜りますようお願い申し上げます。 明玄合掌

【グラウンドゴルフ大会報告】

平成29年11月8日に杵築市仏教会主催のグラウンドゴルフ大会が市営山香サッカー場で開催されました。例年寺町の某寺チームが入賞を総なめしているこの大会。今回こそはと望みましたが…。残念。でも楽しく競技していただきました。

《参加いただいた皆様》

諸富房男、藤原力男、藤原英世、田泓勝、麻生哲治
麻生頼、八坂英一、荷宮京子、浦本征夫、石堂慶子
三浦貴之、閑栖和尚

(敬称略・順不同)

以上の皆様ご参加ありがとうございました。



「付度」 ソンタク

昨年は加計学園の問題から、付度、付度とメディアで見聞きしないことがないほどでした。今年の流行語大賞にも選ばれました。

付度政治、付度社会など「上司や権威ある相手の心中を推し量りその意をくむ」というような、悪い意味合いで使われていました。本来の「付度」の意味は、相手の心中を推し量ること、推察することであり、思いやり、優しさ、心配りのことでもあります。

これは日本人がもつ美德であり、素晴らしい精神文化とも言えます。

さて、禅の修行では、「一を聞いて十を知りなさい」(論語・公治長)。「チーンチャカーンで動かんか！」(打てば響くの意)などと言われて薫陶を受ける。

禅書『碧巖録』の第一則にも次のようにあります。

山を隔てて煙を見て、早く是れ火なることを知り、牆(か

き)を隔てて角を見て、便ち是牛なることを知る

山の向こうに煙がたったら火があることを知り、垣根の向こうに角を見れば、牛がいることを察知することで一部を見て本体を見抜いていく洞察力を示しており、鋭い禅の働きが必要であることを言う。これも考ええてみれば付度と言えるでしょう。また、禅の教えを最もよく表す言葉に「不立文字 教外別伝 直指人心 見性成佛」があります。

經典や古人の禅籍を学び、師家と禅問答を行います。その經典や語言にとられるのではなく、自己の本性を徹見するところが、お釈迦様から伝わっている悟りを体得することで、最も大切だということです。

師家やお釈迦様の心を推察し、行状から大切な教えをくみ取り、悟りへ近づこうとする。究極の付度と言えらるのではないだろうか。

「ソンタク、ソンタク」と騒がしかったが、いい意味の付度で使って欲しいものです。

日々是好日

●十月一日安住寺の元鎮守である貴布祢神社の大祭に参列させていただきました。東下司の廣石信雄さんに昭和二十三年編纂の「貴布祢神社史跡」を見せていただいた後でしたので緊張感がありました。また紀田宮司様や総代様ともお話しでき勉強になりました。●十月初旬健康診断に。特に問題はありませんでした。●十月二十四日眼でしようか。●十月二十四日総代会。別記の通り総代様が交代しました。●十一月九日南禅寺派二十四部研修会。来春の説教会の日程など調整。●十一月十七日大分市長福寺、先住様の十三回忌法要にお参り。●十一月二十八日奉仕作業●十二月八日坐禅会納会。十二日写経会納会。会の皆様一年間ありがとうございました。●本年も一月三日に年始会を予定しております。●総代様、地区世話人様、年頭お忙し中、お繰り合わせ出席頂きますようお願いいたします。●一月

◎参加者募集【白隠さんと仙厓さん】展

平成30年2月2日(金曜日)

天候不順の場合、翌週9日(金曜日)

九州国立博物館で1月1日から開催されている、【白隠さんと仙厓さん】特別展にご一緒しませんか。

*8時お寺出発(便がない場合は近くまでお迎えに上がります。)

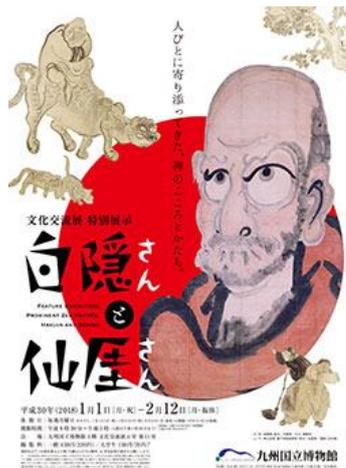
*参加費用は2000円 先着9名まで。

*昼食をとって17時頃帰村

(その他太宰府天満宮、戒壇院など参拝予定。)

※お問合せ、参加ご希望の方はお寺へご連絡ください

十七日の大般若祈禱会法要には、一年の平安をお祈りいたします。大勢の方のお参りをお待ちしております。 住職合掌



大般若会と初観音

毎年一月十七日は、大般若会と初観音です。近隣の和尚方を招き、年頭の祈禱会を致します。法要は、大般若経六百巻を「転読」(てんどく)し、八百万(やおよぼす)の神々に祈る年頭の行事です。

本堂正面に十六善神像図を掛け、前には仏法を護持する檀信徒各靈位のお位牌を祀ります。供物は、お札、餅、神酒、洗米膳、菓子、果物などです。



十六善神図

そもそも大般若経は、中国の小説『西遊記』にも描かれている玄奘三蔵法師が二十六歳の時国禁を犯してインドに渡り、前後十八年間仏跡を回り集めた経典です。帰国後、四年をかけて翻訳し六百巻にまとめました。

わが国では、文武天皇の勅命により大宝三年(七〇七年)奈良・薬師寺などで初めて大般若会が行われ、翌年明天皇の命

により毎年、鎮護国家や除災招福を願う祈禱法会として行われることになったとの記録があるそうです。後には、五穀豊穰など一般民衆の素朴な願いに答える行事として全国に広まり、禅寺でも広く行われています。

毎年お参りされる方はご存知と思いますが、導師は第五七八巻理趣分を読み、他の和尚方は五十巻が入った箱を受け持ち、陀羅尼や呪文を唱えながら、左右に扇を広げるようにパラパラとめくりまわります。一卷ごとに最初と終わりに大きな声で唱える文

言があります。最初は『大般若波羅蜜多経第〇〇巻大唐三蔵法師玄奘奉詔訳』と言い、左右に二、三度めくった後『降伏一切大魔最勝成就』と唱え、次の経本をくりまわります。安住寺では、参拜の方々にも和尚方にまねて大声を出し「大般若転読」の行事に参加して頂いています。

ところで、最後にお唱えする文言は「一切の災いとその根源が退散し、願い事が成就しますように」です。新しい年の初めに神社にも参拝し、色々と願いをされた方も多いかと思えます。皆、叶うのでしょうか？

叶えばこんな有難いことはありません。祈ってじっとしていても、願いは届かないし成就もしないことは火を見るよりも明らかです。何もしなければ、煩惱妄想の垢は際限なく心身に積ります。ついには努力する心も見失ってしまいます。

当寺のご開山である聖一國師は、次のように論じています。『経陀羅尼は文字にあらず、自己の本心なり。(中略)自己の本心を悟り根源にかへる人、真の経を読むなり』と。それは、私たちに向かって、一生懸命になつて祈り、心を清らかにして早く本心を悟りなさい。そうすることが、大変な危機に遭遇した時に切り抜け、災い転じて福となる力を養うことができる。と、教えてくれています。

大般若會 安住寺

般若札
讀はお札という意味

行事の後、参拝された方は右のお札を頂きます。大勢の方々のお祈りが込められたお札です。家の入口などに張って魔除けにされると良いと思います。自分の信心を確かめ、今日一日を純一に取り組む誓いを新たにします。

よすがにして下さい。十七日には是非お参り下さい。午後は、初観音講で、祈りの一日です。



十六善神のお軸は天保16年第10世大典和尚の代に求められた彩色絹本の掛軸です(西暦1844年8月)

古いお札 お持ち下さい
お焚きあげします

古いお札を焼却します。年末か大般若までにお持ち下さい。

◆行事予定◆

一月三日	役員年始会
一月七日	御詠歌初稽古
一月十二日	早朝初坐禅会
一月十七日	大般若・観音講
一月二十二日	写経写仏の会
一月二十六日	早朝坐禅会
二月二十六日	責任役員総代会
三月二十一日	9時より 彼岸法要と法話の会
観音講	二月十八日・三月十八日
坐禅会	二月九日・三月十六日・三月三十日
写経の会	二月二十一日・三月二十二日
説教	二月二十四日・三月二十三日
合掌会総会	四月二十三日

都合により変更することがあります。